

自立した学習者としての児童の育成

ーキャリア教育を視点においた「6つの手立て」を通してー

学校名 北中城村立北中城小学校 児童数 764名 学校長 目取真康司

〒901-2311 沖縄県北中城村字喜舎場 1 番地 TEL : 098-935-3980 FAX : 098-935-4500

<http://www.kitanakagusuku.ed.jp/kitasyou/>

1 実践課題と設定理由

(1) 実践課題 ～固定化された「キャリア教育」への考え方～

社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるために「キャリア教育」を日常的な教育活動に組み込んで展開させていく必要がある。

①キャリア教育＝職場体験等のような固定的な考え方からの脱却。

②学校、家庭、地域における日常的な教育活動の中核としてのキャリア教育の展開。

(2) 設定理由 ～「受け身」の姿勢から「自立」へ～

本校の子供たちは思いやりがあり、学習に対しても真面目な姿勢で取り組んでいる反面、授業において積極的に挙手したり、自分の思いや考えを堂々と発言したりすることについては課題がみられる。家庭学習においても、計画的、自主的な学習には課題が残る。また、友達同士の関係性はいいものの、例えば、学級全体の課題や係活動等について積極的に課題を発見し改善していこうとする意識は低い。こうした「受け身」の姿勢は、将来的な「自立」に向けては阻害要因となり、「キャリア発達」を促すことにはつながらない。そこで、こうした本校の課題に対応するために、「キャリア教育」を視点においた教育活動を展開し、「自立した学習者」としての児童の育成に向けた実践を進めてきた。

2 活動の実際

(1) 基礎的汎用的な能力を自校の課題に合わせてカスタマイズする

基礎的・汎用的能力

自立した学習者の育成を目指す4つの資質能力

- | | |
|----------------|-----------------|
| ○人間関係形成・社会形成能力 | 見通しをもつ力 |
| ○自己理解・自己管理能力 | 問いをもって学習する力 |
| ○課題対応能力 | 他者の問いかけに反応する力 |
| ○キャリアプランニング能力 | 自己の学びを振り返り、活かす力 |

(2) 「自立した学習者」の育成に向けた共通実践～6つの手だて～

①全員つぶやき、全員挙手（意思表示としてのハンドサインの活用）

川崎市立川崎小で取り組まれている「反応する」「意思表示をする」ための具体的な手だてとしての「ハンドサイン」の実践を取り入れている。



イ アクティブ5について

□ 趣旨

パスポートで掲げた目標を達成するために、毎日の学校生活で努力することの大切さを自覚するとともに、自分自身の行動を振り返る。

□ アクティブ5の進め方

・第2週～4（5）週の金曜日の朝の時間に実施する。

・第2、第3週は◎○△で項目ごとに自己評価。

・月の最終日は、◎○△の数を数え、◎を3点、○を2点、△を1点として、各項目ごとの点数を出したあと、・項目の合計を今月の得点として記入する。ふり返りや目標の記入、点数を前月と比較することで、自分の成長や反省を自覚し、自立へとつなげる。

・学期毎のキャリアパスポートの振り返りの際の参考資料とする。

<h2 style="text-align: center;">アクティブ 5</h2> <p style="text-align: center;">年 組 番 ()</p> <h3 style="text-align: center;">かくしゅう5のやくそく</h3>					月
よくできた・・・◎ できた・・・○ がんばろう・・・△					
月日					合 計 ◎3点 ○2点 △1点
1	すすんで発表することができる				
2	ていねいな言葉づかいができる				
3	せすじをのびし、よい姿勢ですわることができる				
4	話し手に体を向けて、静かにきくことができる				
5	苦手の学習も、あきらめずに取り組むことができる				
ふり返り（今月の自分） 次の目標（来月の自分）					今月の得点
<h2 style="text-align: center;">せいかつ5のやくそく</h2>					月
よくできた・・・◎ できた・・・○ がんばろう・・・△					
月日					合 計 ◎3点 ○2点 △1点
1	相手の顔を見てあいさつすることができる				
2	係活動（委員会活動）や当番活動（給食・もく清掃など）に いっしょうけんめいと取り組むことができる				
3	ちくちく言葉をつかわずに友だちを大切にできる。				
4	おうちで、すすんでお手伝いができる				
5	家庭学習（非算ノート）を毎日つづけることができる				
ふり返り（今月の自分） 次の目標（来月の自分）					今月の得点

ウ 「北中っ子ドリーム・パスポート」（キャリア・パスポート）について

□ 趣旨

キャリア教育の視点に立って、子供たちが「どのような人になりたいのか」「どんな夢をもってがんばっていききたいのか」など、「生き方」について考え続け、学年、学校を越えてつないでいくために、学びの履歴を残していく。

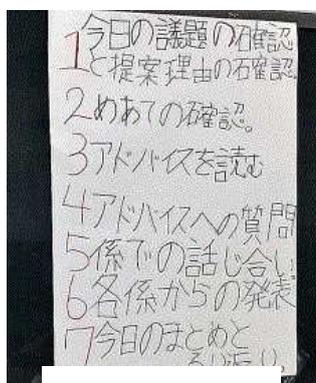
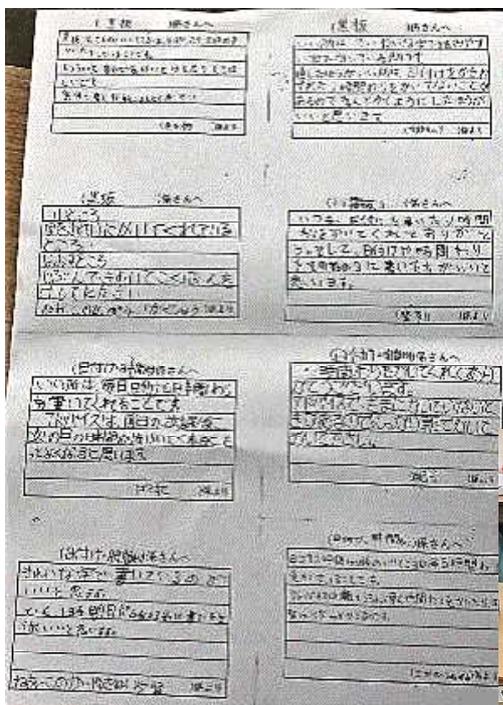
□ 取組の概要

- ・ファイルを作成する
- ・別紙の「夢をつなぐ記録ノート」各学期当初に記述させる。
- ・「夢」については「ドリームウォール」に掲示する。
- ・子供のキャリアにつながる記録等をファイリングする。
- ・「お手伝いウィーク」の記録もファイリングする。（6月実施）
- ・「大人に聞こうキャリアインタビュー」（夏休み宿題）
- ・毎学期終了時に目標に向けて努力したことについて振り返る。
- ・「よいこのあゆみ」もファイリングする。
- ・ジョブシャドウイング（対象：6年生）の振り返り



④目標、振り返り、改善のある係活動等

特別活動にかかる行事や係活動、当番活動、児童会活動等は、他者と共同し目的を達成する日常的な活動として「キャリア発達（人間関係形成・社会形成能力）」を高める上で最も有効だと考えている。



学級会の流れ

【実践例 4年生】

係活動を振り返り、改善するために「アドバイスカード」の実践。

係以外の友達の意見や感想を聞いて、今後の係活動をより良いものにしていくために定期的に特別活動の時間に行っている。



改善策を考える



改善策を実施

アドバイスカードを読む

⑤ノーティーチャー授業の実施

子供たちだけで展開できそうな内容の場合に、定期的の実施している。

自習時間といえば予め用意された「プリント類」を黙々とする学習が通常だが、本校では学習してもらいたい課題について、学習係が教師役となり進めていけるようにしている。

こうした試みには子供の「自立」に向けて、いつも教師の指示のもとに学習が進められている「受け身の姿勢」から、学習係と協力しながら進める「主体性」を育む意図がある。

また、「自治意識を高める」意味においても、有効な取組だと考えている。



学習係等が中心となって行う「ノーティーチャー授業」

⑥ 自立的な家庭学習

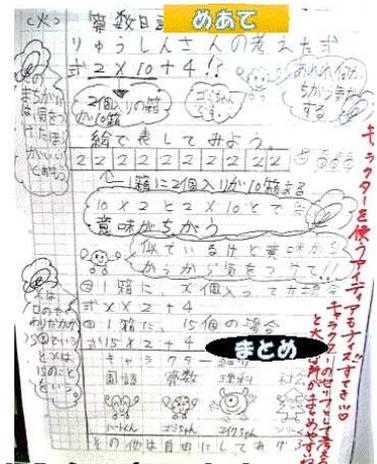
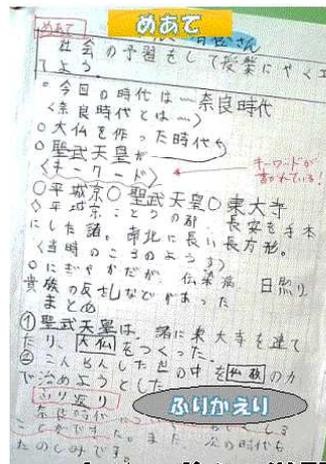
自学自習のできる「自立した学習者」を育成するために、「与える宿題」だけでなく、自分自身の1日の学習を振り返って、またはさらに追究したい内容など、「学習する内容を自分で考えて行う家庭学習」を実施している。

□ 趣旨

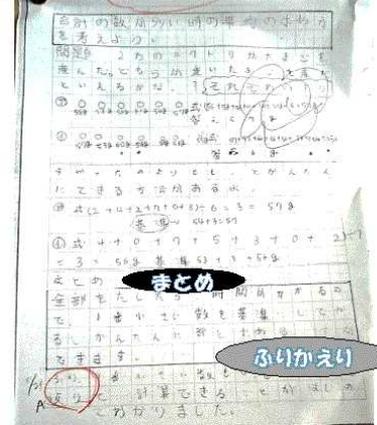
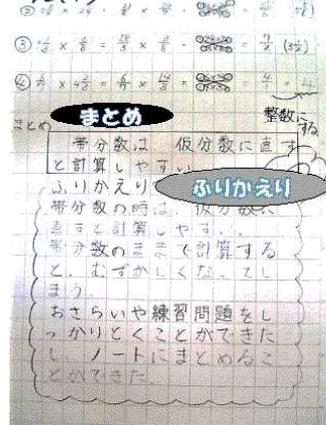
- ・受け身でなく自立的な学習ができる児童の育成
- ・生涯学び続ける意欲を持つための学習習慣の定着

□ 内容

- ・「学校から与えられる宿題」と「自分で考えて学習する『自立学習』」を行う
- ・1～2年生 学校から宿題を与えます。
- ・3～6年生 学校が与える宿題＋「自立学習」(1～2ページ)



自分で考えて学習する力を育てます



3 研究体制

(1) 研究の進め方

- ① 日常的に6つの手立てを実践する
- ② 学年で研究教科を設定し学年研究を進める。
- ③ 教科は1年算数、2年国語、3年道徳、4年特別活動、5年社会、6年外国語) ※各学年にそれぞれ指導助言者有り
- ④ 異学年リフレクションを通して研究の成果を共有する。
- ⑤ 検証授業を行う。(年間3回)

ア 年間2回の学年授業 (5月、10月)

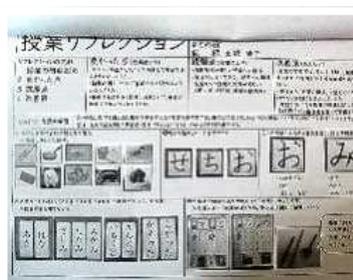
- ・学年一斉授業 (3校時)
- ・懇談 (4校時)

イ 公開授業 (1月)

- ・各学年2学級が授業。残りの学級は自習



異学年リフレクションのようす



リフレクションシート

※ 1回目、2回目の指導案はホームページにて掲載

(2) 第1回研究授業より 5月20日(月)

〈助言のポイント(全体)〉

- ・めあては、子供のつぶやきを拾い「問い」をもたせる
- ・ペア、グループの前に、自分の考えをしっかりとらせる
- ・1時間に1度はハンドサインを
- ・ハンドサインのカギは「発問」
- ・意見の分かれる「発問」の工夫を
- ・子供同士の関わり合いの比率をもっと高くしたい。
- ・つぶやきなどの反応のない子をそのままにしない。
- ・「振り返り」が「まとめ」と同じにならないよう視点を持たせる

1年 算数

- ・振り返りは意思表示
- ・つぶやき等の項目を学年で統一
- ・子どもの「つぶやき」の中から言葉を広げていき語彙力を増やしていく

2年 国語

- ・ハンドサインを活用しいろいろな場面で手を挙げる習慣付けをする
- ・子ども同士コミュニケーションを取らせる工夫

3年 道徳

- ・ハンドサインを児童同士のつながりや学び合いに活かす
- ・自立へ向かうために、削るところを考える

4年 特別活動

- ・議題を事前に子ども達に知らせて考える時間を取ると様々な意見がでやすい
- ・話し合いの際はマニュアルが有った方が安心して発言できる。

5年 社会

- ・子ども同士の関わりを増やす
- ・キャリア教育(校内研テーマ)にせまる授業作り

6年 英語活動

- ・「考える場の設定」
「コピーからの脱却」
- ・ALTとHRTの役割を明確にする

特別支援教育

- ・「聞くことが大切なゲーム」声の大きさやたどたどしさに対してどう工夫するか
- ・自己肯定感を高めるための工夫



(3) 第2回研究授業より 10月10日(木)

〈助言のポイント（全体）〉

- ・ 問い返す力を身につけさせることが大切なので、指導を継続してほしい。
- ・ 道徳では、教材の読み取りに終始しないよう問題提起の仕方を工夫していくこと。
- ・ 子どもの質問や疑問は子ども達に解決させる。子どもは教師よりも同級生の言葉で理解することが多い。
- ・ 話合いのルールをレベルアップさせる。
- ・ 「評価基準」明確にする。

1年 算数

- ・ 子ども同士で話し合いができていた。
- ・ 伝え合いの仕方を工夫していく。（対話を充実させる。）→相手を意識した伝え合い。
- ・ 算数だけでなく他教科でもジグソー方式を進めていく。

2年 国語

- ・ グループ活動や振り返りの時にもハンドサインを取り入れることができるのではないか。
- ・ 話合いの中で折り合いをつけられる習慣を身につけさせる。（日常的に実践して深める）

3年 道徳

- ・ 45分以内に話し合い活動が頻繁にあり納得感が育ちつつある。意識して指導案に記し、普段から取り組んできた。
- ・ 読み取りにならない様に教科書は見せず話を聞くことによって自分の考えが出てきたのはよかった。

4年 特別活動

- ・ 発表時にノートを見ないのは、グループでの話し合いが活発な証拠。
- ・ 決めたことの実践→振り返り…この流れが深い学びになる。（専科との協力）
- ・ めあてに「話し合いの中で折り合いをつけて1つに意見をまとめる」と入れてみる。

5年 社会

- ・ 話合いでは自分との違いを意識させながら友達の意見を聞かせることが大切。
- ・ 対話と言っても声を発することだけではない。資料を読み取る際も自分と資料との対話である。沈黙は次の対話への準備（大切な時間）である。

6年 英語活動

- ・ 今回の授業に向けてALTとよく話し合っ準備し、ALTと連携して授業ができた。
- ・ さらに一步前進するために子どもたちから英語を引き出す工夫をする。（教師がリアクションする時にも英語で返すこと、子ども達が発表している時は教師は離れ、子どもたち同士で help してあげること等）

特別支援教育

- ・ ポイントを絞った指示だったので児童が理解しやすくよかった。
- ・ ヒントカード（絵カード）の準備が良かった。日頃からの掲示が効果的。
- ・ 自立活動を積極的に進めることで社会性を身につけさせることが大切。



月	日	曜	研究組織	研修・研究内容
4	4	木	職員会議 全体研	○本年度の研究概要についての共通理解と確認 ・研究テーマ、研究方針、研究内容 ・授業リフレクションについて ・授業研究について
	23	火		※村教務・学推・校内研等担当者会① 16時～ 公民館
5	9	木	学年研	○第一回授業研究会に向けて指導案作り等
	20	月	第一回授業研究会（主事を招いて）	
6	6	木	異学年	○第一回授業研究会について異学年リフレクション
	25	火	全体研	○丹野先生講話「困っている児童の対応について」
7	9	火	学年研	○授業リフレクション
	23	火	学年研	○「第二回授業研究会」「公開授業」の指導案作成
	24	水	全体研	○山内かおり主事講話「授業リフレクションについて」
			異学年	○異学年リフレクション
	25	木	学年研	○「第二回授業研究会」「公開授業」の指導案作成
	29	月	全体研	○高屋武裕江先生「キャリア教育について」
			学年研	○主事を交えて指導案検討会（各学年主事と日程調整）
9	5	木	学年研	○「第二回授業研究会」に向けて指導案作成等
10	8	火	学年研	○「第二回授業研究会」に向けて指導案作成等
	10	木	第二回授業研究会（主事を招いて）	
	29	火		○村学力向上推進公開授業（島袋小）
11	12	火	異学年	○第二回授業研究会について異学年リフレクション
	26	火	異学年	○第二回授業研究会について異学年リフレクション
12	10	火	学年研	○公開授業に向けて（教材研究、語準備）
1	16	木	学年研	○公開授業に向けて（教材研究、語準備）
	24	金	県指定校公開授業	
	28	火	異学年	○「公開授業」異学年リフレクション

夏期校内研修のようす



3 活動の結果

(1) 6つの手だて～アクティブ5得点から（全学年平均）6月と11月比較～

- ① 全員つぶやき、全員挙手 40% → 75%
- ② 問い返しのある「対話」20% → 35%
- ③ 自分の学習過程を深く見つめる自己評価 43% → 66%
- ④ 目標、振り返り、改善のある係活動等 52% → 84%
- ⑤ ノーティーチャー授業の実施 15% → 60%
- ⑥ 自立的な家庭学習 36% → 68%

(2) 学力状況（H31 全国学力・学習状況調査）

国語 本校 68.6 沖縄県 68.1 全国 63.8 算数 本校 67.9 沖縄県 67.9 全国 67.0



学びの確かめ(11月)

学年	国語			算数		
	本校正答率	県正答率	差	本校正答率	県正答率	差
3年	73.2	60.5	+13.2	67.2	68.6	-1.4
4年	63.5	60	+3.5	65.8	64.2	+1.6
5年	41.9	45.9	-4.0	63.3	67.6	-4.3

5 成果、課題及び対応策

(1) 成果

- 固定化された「キャリア教育観」からの転換が図られてきている。
- 「自立」を意識した教育活動、家庭学習等への転換が図られつつある。
- キャリア・パスポートをつなぐツールとしてのアクティブ5の活用が定着している。
- 挙手、つぶやき、対話活動が活発になり主体的に授業に参加する児童が増えた
- ノーティーチャー授業、振り返りのある係活動等により主体性が高まっている。
- 「自立的な家庭学習」により、受け身の学習から、学習に対する主体的が高まっている。
- 夢や希望に対して努力を継続する行動が見られるようになった

(2) 課題

- まだまだ、個によって偏りのある「つぶやき」「挙手」「発言」の定着
- 双方向の対話を展開するためのカギとなる「問い返す力（質問）」の向上
- キャリア・パスポートを活用した授業

(3) 次年度に向けて

さまざまな教育活動の中で、「キャリア発達」を促すための最も核となる「授業」を、さらに子供たちが主役となるものになるよう改善を継続する。

6 おわりに ～学校の使命は、子供たちの「自立」を支援すること～

学校の存在意義を問われたとき、最も端的に表現するとすれば、それは「自立支援」ではないでしょうか。急速に変化する社会の中で、大人も子供もその対応に苦慮しています。しかし、子供たちはその中で生きていかななくてはなりません。子供たちが学校で学んだ力を社会で発揮できるよう、学校も変化していく必要があります。本校の実践が、これからキャリア教育を進めていきたいと考えている学校の一助になれば幸いです。

